

中海宍道湖地域でのコハクチョウの二次稲穂採餌観察記

内 田 映 *

Observations on Bewick's Swans Consuming Secondary Ears of
Rice at Lake Nakaumi and Shinjiko

Akira Uchida *

はじめに

昭和55～56年冬から島根県東出雲町意東の中海海岸にはコハクチョウ群が居つかなくなってから中海渡来コハクチョウの中心地は、鳥取県弓ヶ浜半島部の米子市彦名干拓地中海沿岸となった。そして島根県安来市の能義平野の水田地帯で落ち稲穂を拾っている写真も見られるようになった。コハクチョウが中海宍道湖地域で水田の稲収獲跡地に現われて、刈株二次生長の稲穂を、しごき食ったり、落穂を啄むことは、既に昭和50年12月に松江市東長江町の宍道湖岸長江干拓地の水田で筆者が観察している。これは当地方でのコハクチョウ群の陸地農地での採餌例特に二次生稲穂採食の最初のことと思うので、以下観察記を述べておく。

観 察 記

昭和50年12月2日（晴）

松江市街地の西方直距5kmの長江干拓地（約8ha）にコハクチョウが飛来することを知ったので、自転車で調査に出かけた。長江干拓地に入る前に船入場の堤防が宍道湖へ突出していたので、この先端まで出て湖面を眺め廻したが、コハクチョウの姿は見られず、コガモが10羽の群れと、コガモ6羽、マガモ1羽の群れ、それに少し離れてカンムリカイツブリが1羽湖面を出没していた。干拓地の南端が堤防で宍道湖に接し、堤防上は平田、松江両市をつなぐ湖北道路で、車輛の交通がはげしい所である。干拓農地に入ると、稲の刈られた後の水田には丈高30～40cmの二次生長（二番立ち）小株が青かったり枯れたりして、ささやかな稲穂をつけて広がっていた。概観したがコハクチョウらしいものは見えないので、向い側山際の旧道を廻り農地を一周して帰ろうと、自動車の往来のはげしい湖北道路を尚自転車走らせた。ふと彼方旧道に寄った水田に白い姿の一群れが見えた。矢張り居たのだと立ち止って双眼鏡で見ると間違なくコハクチョウ10羽が数えられた。この干拓農地の中へ通ずる農道に沿って静かに80m位まで近寄って、よく見ると成鳥3羽幼鳥10羽の一群であった。二番立ちの稲穂を首を下げ茎をしごきながら採餌していた。時々頭首を立て

*〒690 松江市国屋町150.

150 Kuniya-cho, Matsue City 690.

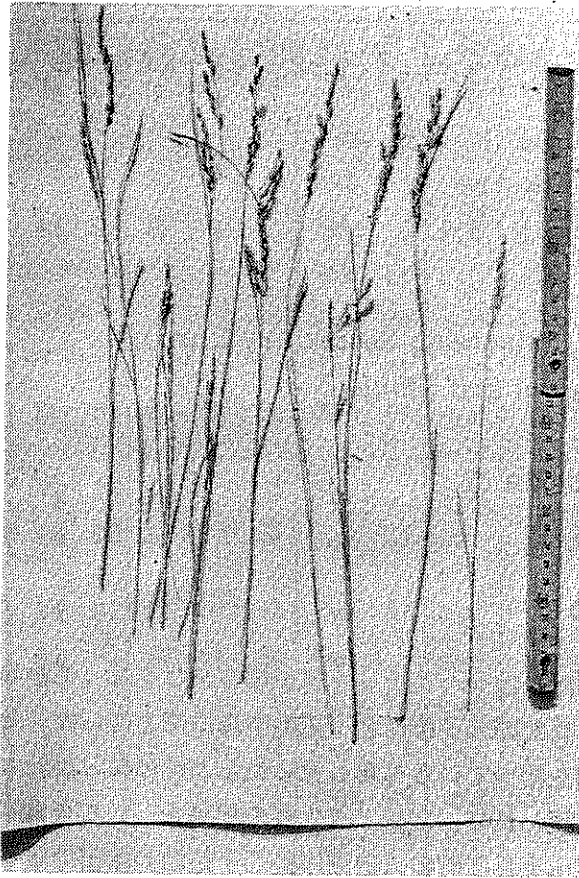


図1. 二次生長稲穂.

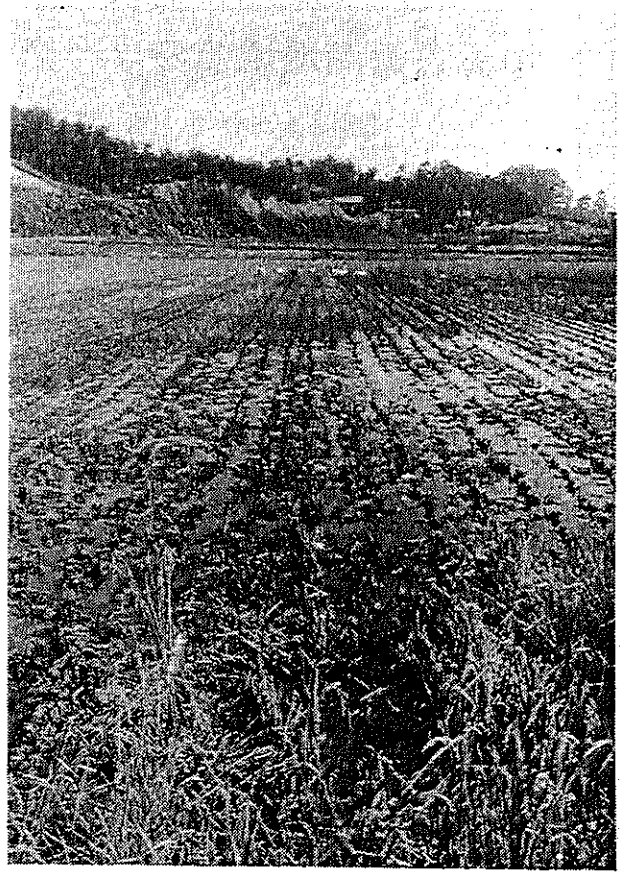


図2. 水田で二次生長稲穂をしごき食うコハクチョウ10羽の群れ(昭和50年12月3日).

て四囲を警戒しながら、また頭を下げて、しきりに稲穂を食べていた。この地点は湖岸堤防道路からは約300m、また山を背負う静かな旧道からは150m位離れた所であった。この地点の南側は、稲刈株の二番立ちの見られない水田で、コサギが1羽採餌中、北側はヨシ原に接していた。やがてコハクチョウ群は湖の方へ一斉に飛び上り、コオッと一声を残して西南方へ去った。10時55分から約20分間の観察であった。

12月3日(晴)

昨日観察行の際、写真機を忘れて行ったので、今日は写真撮影に同じ時刻の11時頃に長江干拓農地東端に着いて、昨日居たあたりの水田を見渡したが姿は無かった。仕方がないから位置の写真でも撮って帰ろうと自転車を進めると、干拓堤防道路の南側六道湖の沖合50mの湖上に成鳥3羽幼鳥7羽のコハクチョウの一群が休んでいるのを発見した。干拓地水田の中の農道には自動車4台、農機具車1台が見え、また梁を水田へ降ろしたり、水路へホースを入れて何か作業をしている人など5人がいたので、このコハクチョウ群は、湖上へ退避しているということだろうと思った。少しすると、突然パーッと飛び立ったと思うと、昨日居た水田へ降りた。自転車で後を追ひ、近くなると降りて静かに歩いて約80mの距離の所で立ち留って観察した。コハクチョウ群は時々こちらを向くが、長い首を下げて二番穂をしごき食う姿が手に取るように見えて、ゆっくりと穂をしごき食う姿を観察することが出来た。標準レンズだが写真を何枚となく撮影したが、コハクチョウたちは一向に恐れることもなく何時までも採餌していた。二番穂の広がる水田は3~4haはあるだろう、そし

て地元の人々も追っ払はないようなので、この両親2羽と、まぐれ混入の成鳥1羽と幼鳥7羽の一群は、よい米蔵を見つけたものである。願わくは、このまま安全にこの一冬を過すようにと祈りながら現場を去った。

12月19日（晴）

長江干拓地水田のコハクチョウは、その後どうしているのだろうか時々思いながらも、10日の講演準備や20日締切の原稿などに心忙しく、それに雨や曇の荒天にもされて心ならずも失礼していた。今日は良い天気となったので、自転車を走らせて訪ねてみた。干拓地に到着して四囲を見渡したが白いものは見えず、コハクチョウはいなかった。仕方なく干拓農地を一周して帰ろうと湖北道路を自転車のペダルを踏んで行くと、左方宍道湖北岸沿に白い光るものが浮いているのが見えた。コハクチョウだ、居た、位置は干拓地の西端、東長江町の湖へ突出したあたりだった。時刻は11時5分、例の二番立ち（二次生育）稲穂採餌水田には、一人一人の影もないから充分食べて、今は悠々と湖上で休養浮游中というところだろうと思った。成鳥3羽、幼鳥7羽から成る10羽の構成は、前回調査の時と同様である。未だあの時以来ずっと宍道湖西部に定着しているものと推定された。このあたりの湖中には食草（水草）はなく、前回と同じく一回も逆立ち採餌光景を見ることはなかった。

昭和51年1月2日（晴）

正月だが、あまり天気が良いので、長江干拓農地を訪れてみようとして自転車を走らせた。正午前に現場入口着・大観したが農地の水田にも付近の宍道湖面にもコハクチョウは見られなかった。そのうちズドンと銃声一発、湖面よりカモ類が一斉に飛び立つ。更に湖北道路を西進して干拓農地沿に行くと、農道に若い男が一人、猟銃を持ち水田を凝視していた。そう言えば、此所に来る途中の西浜佐陀町県立盲学校付近の水田でも銃を構えた男が水田の畦道を歩いていた。正月休みは、野鳥たちには御難の正月である。

1月11日（吹雪）

日本白鳥の会の全国一斉定時（10時）定点観察調査日。昨日来雪降りとなり、今朝は風も少しあって吹雪という悪天候。とても自転車では向へず、それに危険であるので近くの二ツ池バス停留所9時41分発一畑バスで終点古江下車、スキー帽で耳を包んで軽い吹雪の中を旧道を歩いて、長江干拓農地が一望出来る高地点に着いたのは丁度10時であった。干拓農地約8haの水田、畑地は、数日來の雪降り雪化粧しているので、白鳥を見つけるのは困難だが、ゆっくりと探してみた。然しそれらしいものは観察されないで、仕方なく念の為にも少し農地の中も歩いた後に帰ろうと歩みかけた兎端に、南側の宍道湖上から吹雪の中を白鳥の編隊が真正面へ飛翔して来るのではないかと驚いた。一瞬夢ではないかと吾が眼を疑ったが、編隊は西風の吹雪に抗しながらも、やがて水田の上で旋回しながら高度を下げて風上に向った時には瞬時編隊は殆んど停止状態のこともあった。13羽が数えられた。やがて風に向って一斉に着陸した。偶然とは言え、当初この編隊を発見した時には、ただ茫然と顔に吹きかかる粉雪の冷たさを感じない程に凝視していた。降下地点の水田とは約300m位離れていたの、もう少し近づいてよく見ようと、水田の中を通る農道へ80m位の所で双眼鏡を向けると、こちらを向いて首を立てて警戒していたが、一粒の二次（二番立ち）稲穂も食わないままに一斉に南へ飛び去った成鳥5羽、幼鳥8羽だった。非常に警戒旺盛となっていたのは、正月休みでのハンターの銃声で警かされた為と思われた。

2月8日(日曜日)(曇時々小雨、霰も降る)

日本白鳥の会全国一斉定時定点調査日。曇空だが雨も降らないようなので自転車で長江干拓地へ向う。10時長江干拓地の東端に着いたが、何時もの飛来地点の水田にもその先の方の見渡す水田にも、更に湖北道路南側の宍道湖上にも白鳥の姿はなかった。ひょっとしたら何時か居た干拓地西端附近の湖上はどうかと再び自転車を走らせた。中途まで行った所で、前方から白鳥の群が、こちらへ飛翔しているのが分った。また今日も小生を歓迎にやって来たのかと嬉しくなる。数えると、14羽であった。白鳥群は何時もの水田飛来地へ行き、2、3回旋回したが着陸を止めて反対の南側の堤防湖北道路の少し沖の湖水に降りた。自転車で引き返して最短距離の位置で双眼鏡で観察するにコハクチョウの成鳥7羽、幼鳥7羽の14羽であった。どのコハクチョウも湖水に首を入れるものはなく、一時退避して、また水田へ向う為であろうと思った。これで今日の一斉調査の目的を達したので、喜んで帰途に着き、干拓地東端を過ぎて、上り坂で自転車を降りて押して上っている時に、折角写真機を持って来ていながら、湖上のコハクチョウを撮影することを忘れていたことに気づいたので早速引き返して撮影した。今度は旧道より帰ることにして水田干拓地の中の農道を通り、山際の旧道近くになってふりむいて見渡した。すると再びコハクチョウの群は、こちらへ向って飛来しており、やがて旋回の後、今度は水田に降りた。また徒歩で、ゆっくりと農道を引き返して80m位の距離で立って観察していると、コオッ、コオッと声を出したかと思うと、また湖上へ去った。今年に入ってからは、コハクチョウは人影を恐れるようになっている。近くでヒバリが1羽鳴いていた。